

令和6年3月

静岡県立高等学校の在り方に係るグランドデザイン（小笠地区）

（高校教育課 学校づくり推進班）

1 要旨

小笠地区の県立高等学校の在り方について、地域協議会での協議を踏まえ、グランドデザイン（案）を策定した。

○スケジュール

時 期	内 容
令和4年10月18日	第1回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
令和5年3月27日	第2回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
9月15日	第3回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
12月26日	第4回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
令和6年3月25日	第5回県立高等学校の在り方に係る地域協議会 （グランドデザインの検討）

2 グランドデザインの概要

（1）方向性

- ・当面は生徒数の大幅な減少が見込まれないことを踏まえ、地域全体で教育活動の一層の魅力化・特色化を推進する。
- ・生徒数減少により教育活動維持が困難と想定される場合は、地区外も含めた新たな発想（志榛（R6～7 予定）・磐周（R7～8 予定）の地域協議会の検討と合わせて）で再検討する。

（2）学校の魅力化・特色化

「行きたい学校」の選択肢の提供のため、地域との更なる連携や多様なカリキュラムの充実等を進める。

○地域の様々な主体との関わりを活かした探究的学びの充実

- ・探究活動・体験学習の充実、地域課題解決への寄与（産学官連携、就業体験によるキャリア教育など）。

○地域の現状や特色を踏まえた魅力ある学びの充実

- ・幅広い産業が根付く地域性を生かした連携（農・工・商などの垣根を越えた学び）
- ・社会変化を踏まえた先端的な学び（環境・情報等）

○企業・大学・専門機関等と連携した専門的な学びの充実

- ・実学×普通科、実学×実学の連携など、学びの深化・高度化（大学等を拠点とした学習活動など）

○セーフティネット機能の確立（特支分校との連携等）

（3）今後の対応

各学校におけるグランドデザインの具現化については、令和6年度以降に各市・学校と詳細な協議を行った上で決定する。

小笠地域〈県立高校〉のグランドデザイン

【課題認識・全県】

- 少子化が進行する中での高校の改革（配置と規模のあり方など）
- VUCA、Society5.0など変化の激しい時代を生き抜く力

【課題認識・小笠地域】

- 自律性、主体性、積極性、表現力、協調性、創造力等の資質能力の育成
- 地域に根ざした多様な学びの展開、ふるさとを思う心の醸成
- 外国ルーツ、特別支援の対応等、誰一人取り残さない学びの充実
- 10年程度先の急激な生徒数の減少を見据えた検討・取組

【高校改革の基本認識・全県】

- 行ける学校から行きたい学校へ、画一から多様へ（学びの変革）
- 地域・実社会と共にある学校（開かれた学校づくり）
- 時代の変化を踏まえた教育基盤（学校の配置・規模等）

【高校改革の基本認識・小笠地域】

○3つの視点が重要

- 自律・主体性…自分の未来を自律的・主体的に切り開く力、外に向けた表現力の発揮
- 多 様 性…地域・企業等と連携した多様なコースの設定、セーフティネット機能の充実
- 持続可能性…地域に力を与える学校づくり、持続可能な地域の担い手の育成
持続可能な高校の在り方の生徒数減少を踏まえた検討

【目指す高校のあり方】

「自律・主体性」「多様性」「持続可能性」の3つの視点を踏まえ、多様なコース設定、他地区も視野に入れた学科・学校間の連携など、学びや学校体制を中長期的な視点で再構築し、広い視野を持ち、地域を知り、地域の発展に貢献できる人材を持続的に育成

【生徒の学びのイメージ】

- 多様なコース設定により自己の適性や進路目標に対応した学びの選択が可能
- AIやICT活用により、時代のニーズを見通した学びや遠隔教育が可能
- 地域、企業、自治体や小・中学校、大学等との連携により、地域への理解・愛情を深める学びや体験的学習、キャリア教育の充実が可能
- 特別支援学校分校も活かした共生・共育の更なる推進が可能

【具現化のための方策】

【学びの変革のあり方】

- 地域の様々な主体との関わりを活かした探究的な学び
→地域への愛着を育む教育、地域課題解決への寄与
体験学習の充実、将来を見据えたキャリア教育
- 魅力化・特色化による「行きたい学校」づくり
→農・工・商、様々な産業が根付く地域性を活かした学び、時代の変化を踏まえた先端の学び
(普通科等も含めた地域連携・多様なコース)
(環境・情報など先端的なカリキュラム)
- 企業・大学・専門機関等と連携した専門的な学び
(実学×普通科、実学×実学の連携など、学びの深化)
(教員の多忙化への影響に配慮)
- 学習内容や実績等の生徒・保護者への情報発信
- セーフティネット機能の確立
→特支分校との連携、小・中学校との連携の強化

【地域との連携のあり方】

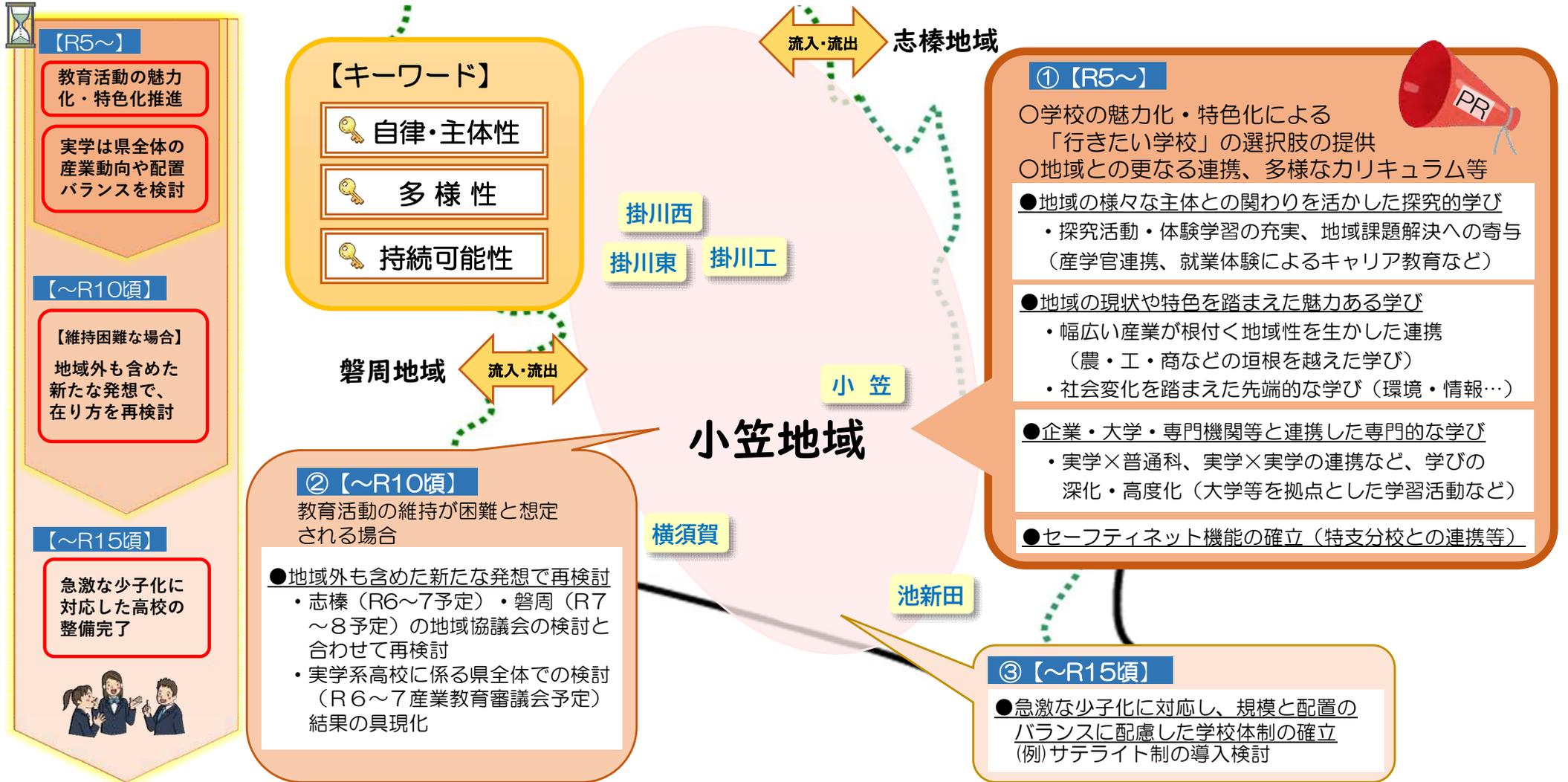
- 学校と多様な主体（住民、企業、大学・研究機関、団体、自治体等）との連携を引き続き推進
→様々な主体が学校と連携する体制の強化
→交流機会の拡大、地域や企業と連携した探究活動や体験活動の一層の充実
- 交流の拡大に伴う地域に開かれた学校づくりの一層の推進
→地域と学校をつなぐ人材の育成

【教育基盤のあり方】

- 学校規模と配置のバランスの確保
→当面は生徒数の大幅な減少が見込まれないことを踏まえ、地域全体で学校の魅力化・特色化
→生徒数減少により教育活動維持が困難と想定される場合、志榛（R6~7 予定）・磐周（R7~8 予定）の地域協議会の検討と合わせて、地区外も含めた新たな発想で再検討
→実学系高校・学科については、県全体の産業動向や配置バランスを踏まえて検討（産業教育審議会（R6~7 予定））
 - 学びの多様性の確保
→学校間連携（ICT活用）や地域との協働の充実
- *別にイメージ図を添付

小笠地域〈県立高校〉のグランドデザイン

イメージ



【R5〜】

教育活動の魅力
化・特色化推進

実学は県全体の
産業動向や配置
バランスを検討

【〜R10頃】

【維持困難な場合】
地域外も含めた
新たな発想で、
在り方を再検討

【〜R15頃】

急激な少子化に
対応した高校の
整備完了



【キーワード】

🔑 自律・主体性

🔑 多様性

🔑 持続可能性

流入・流出

志榛地域

掛川西

掛川東

掛川工

小笠

小笠地域

横須賀

池新田

②【〜R10頃】

教育活動の維持が困難と想定
される場合

- 地域外も含めた新たな発想で再検討
 - ・志榛（R6〜7予定）・磐周（R7〜8予定）の地域協議会の検討と合わせて再検討
 - ・実学系高校に係る県全体での検討（R6〜7産業教育審議会予定）結果の具現化

①【R5〜】

- 学校の魅力化・特色化による「行きたい学校」の選択肢の提供
- 地域との更なる連携、多様なカリキュラム等
- 地域の様々な主体との関わりを活かした探究的学び
 - ・探究活動・体験学習の充実、地域課題解決への寄与（産学官連携、就業体験によるキャリア教育など）
- 地域の現状や特色を踏まえた魅力ある学び
 - ・幅広い産業が根付く地域性を生かした連携（農・工・商などの垣根を越えた学び）
 - ・社会変化を踏まえた先端的な学び（環境・情報…）
- 企業・大学・専門機関等と連携した専門的な学び
 - ・実学×普通科、実学×実学の連携など、学びの深化・高度化（大学等を拠点とした学習活動など）
- セーフティネット機能の確立（特支分校との連携等）

③【〜R15頃】

- 急激な少子化に対応し、規模と配置のバランスに配慮した学校体制の確立
(例) サテライト制の導入検討

